

# 過去最大φ250で施工

藤野興業・  
アイスピック工法

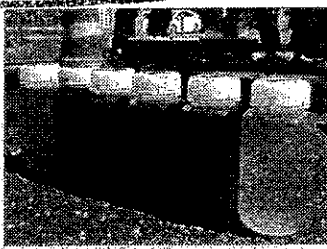
## 富田林市内の污水管で

藤野興業(富田林市・藤野正勝社長)は8日、富田林市上下水道部の下水道送管でアイスピック洗浄工法のデモ施工を実施した。同工法として過去最

大口径のφ250に適用したもので、周辺5市町村の自治体職員が視察に訪れるなか、管内夾雑物を絡め取ったアイスシャーパーットの一部を到達地

点でサンプル回収し、除去効果をアピールした。施工場所は公共下水道の梅の里中継ポンプ場から下流側に伸びる分流式の污水管(φ250のター

ルエボキシ樹脂コーティング鋼管)で、延長800m区間。布設から約35年が経過したが、数百回以上のスパンを洗浄可能な工法が確立していなかったこともあり、これまで管内清掃は未実施とな



夾雑物の除去効果を立証



周辺5市町村の職員が視察に

っていたという。使用した特殊アイスシャーパーットは8・8トンのポンプ場では、一度に管内に注し、約180分

で製造し、連搬用タンク車(デリバリーユニット)4台で輸送した。注入口のポンプ場では、一度に2台ずつシャーパーットを管内に注し、約180

分のピグを形成。0・22MPaでポンプ圧送し、ピグは約30分かけて回収口に到達した。施工確認した浅尾寛・富田林市上下水道部下水道課主幹兼管理浄化槽係長は「想像より多くの堆積物を排出できた。今後は、污水ポンプの運転時間の短縮に伴う電気料金の削減額で費用対効果を検証したい」と感想を述べた。

片山敏・藤野興業専務取締役は「φ250では初施工だったが、回収口までシャーパーットを維持し夾雑物を多く除去できたことで、同口径での洗浄効果に強い手応えを感じている」と語った。